

平成24年度プロジェクト中間評価および事後評価前倒し結果反映一覧

○中間評価対象プロジェクト

No	プロジェクト名	担当部	反映のポイント	反映 類型	評点				
					位置付	マネジ	成果	実用化	成+実
1	がん超早期診断・治療機器の総合研究開発 (「超早期高精度診断システムの研究開発」 及び「超低侵襲治療機器システムの研究開発 ／高精度X線治療機器の研究開発」)	バイオ	サブプロジェクト間の連携については、SPLと NEDO間で了解事項メモを作成しバイオ部長へ の報告を行う。これにより、プロジェクト全体での 情報共有化を促進、連携強化を図る。	①	2.5	1.5	1.8	1.6	3.4
2	次世代機能代替技術の研究開発	バイオ	再生医療に関しては、開発委員会等を通じて実 用化、事業化の意識付けを行い、臨床応用でき る成功例に繋がるよう大動物実験等を促進して いく。	①	2.7	2.1	2.1	1.3	3.4
3	次世代蓄電池材料評価技術開発	スマコ ミ	「標準的な評価手法の確立」の量化は難しい が、進捗の評価指標として、①電池の種類②電 池モデル製造方法数③性能評価方法数④シ ミュレーションモデル作成数を実施方針に記載 する。	②	3.0	2.7	2.4	2.3	4.7
4	低炭素社会を実現する革新的カーボンナノ チューブ複合材料開発プロジェクト	電材ナ ノ	出口ユーザーの要望と開発目標を適合すべく、 平成24年より応用研究開発として助成事業を加 え、用途に応じ、開発目標、期間等を明確化し ていたが、今後より精査していく。	②	2.8	2.5	2.5	1.7	4.2
5	後天的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創 薬基盤技術開発	バイオ	創薬標的分子の探索・同定については、加速資 金の増額により研究開発内容の充実を図る。	①	2.8	2.8	2.9	2.1	5.0
6	次世代素材等レーザー加工技術開発プロジェ クト	技開	今後、重要な対象材料となるCFRPに対し、パ ルス幅、波長などの加工条件について固定した 目標を設定せず、最適な条件を見出す。	③④	2.3	1.1	1.7	1.6	3.3
7	太陽エネルギー技術研究開発／革新的太陽光 発電技術研究開発（革新型太陽電池国際研究 拠点整備事業）	新エネ	量産性、低コスト化、資源問題の観点も踏まえ た上で、変換効率が40%超を見込めるテーマに 選択と集中を図っていく。	②	2.9	1.9	2.1	1.9	4.0
8	太陽エネルギー技術開発／太陽発電システム 次世代高性能技術の開発	新エネ	コストに関する事業実施者との情報交換、議論 をこれまで以上に密に行い、各開発目標がコス ト低減に及ぼす効果を精査し、実用化への道筋 を再確認しながら開発を推進する。	②	2.8	1.7	1.8	1.8	3.6
9	低炭素社会を実現する次世代パワーエレクト ロニクスプロジェクト／低炭素社会を実現す る新材料パワー半導体プロジェクト	電材ナ ノ	高速エビ成長の従来技術は低欠陥性に懸念が ある一方、現在、高速成長かつ低欠陥性を併せ 持つエビ成長技術の実現を目指しており、引き 続き研究開発に取り組む。	①	3.0	2.1	2.4	2.4	4.8
10	低炭素社会を実現する超電圧ナノエレクトロ ニクスプロジェクト／低炭素社会を実現する 超電圧デバイスプロジェクト	電材ナ ノ	開発成果を活用する各企業の実用化・事業化に 対する戦略(知的財産権の維持・確保を含む) を、各企業と個別に議論を行い明確化する。	①	2.6	1.9	2.3	1.0	3.3

○事後評価前倒し対象プロジェクト

11	水素先端科学基礎研究事業	新エネ	後継事業では水素ステーションコスト2億円以下 を目標とするが、規制の見直しや安全性の確保 にも留意しつつ材料開発を含めた技術開発を行 う。	②	2.8	2.5	2.4	1.9	4.3
12	固体酸化物形燃料電池システム要素技術開発	新エネ	後継事業では市場導入想定の下セルスタックの 耐久性評価試験をNEDOで行い、システムメー カー・ユーザー企業の意見を取り入れる体制を 構築する。	②	3.0	2.6	2.3	2.1	4.4
13	水素製造・輸送・貯蔵システム等技術開発	新エネ							
14	環境調和型製鉄プロセス技術開発	環境							

反映類型 ①テーマの一部を加速し実施 ②概ね現行どおり実施
③基本計画を一部変更し実施 ④テーマの一部を中止 ⑤中止または抜本的な改善